目次

１面　『景観に関して思うこと』
２面　『シンポジウム「江戸の風景」を開催しました』／
３面　『歩いてみました　東京都指定の歴史的建造物』／『お知らせ』
４面　『東京景観写真』／『会員の声』／その他

みんなでつくる美しい東京

第５号
発行
美しい東京をつくる都民の会
（株）文芸事務所三友事務所気付
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-42-12
パークビル5F
FAX.03(3971)2746
編集　広報委員会

寄稿

景観に関して思うこと

岸ユキ氏（女優）

心の窓を開いて

【きし　ゆき】
女優。
美しい東京をつくる都民の会
副会長。

仕事で富山へ行った日が丁度あの有名な”おわら風の盆”の最終日であった。二百十日に台風の風が吹かないよう豊穣を祈るお祭りと聞いたが、前々から一度見たかったので夕食後出かけてみた。

富山市内から車で三十分ほどの内陸に入った八尾（やつお）町という所で行われていた。田んぼや暗い山道を抜け、車が下り坂にさしかかった時、突如現れた闇に浮かぶ無数の提灯。風の盆の舞いは、そんななか、何ヶ所かで行なわれていた。

どこへ行っても坂道や階段の多い町だが、メインストリートは日本の道百選に選ばれている。石畳の道の両側には、太い柱に軒（のき）が深く長い、がっしりとした古い家々が続く。まさに日本の風土にあった美しい町並みである。

多くの家が、部屋を開放し、踊り手の休憩場所や準備用に、また観光客も自由に入って音曲を楽しめるようになっている。子供から年配者まで、まさに町をあげての祭りだ。編笠を目深にかむり、町の人達が奏でる音曲、越中おわら節にのって静かに舞う姿は、神秘的にも見える。

美しい町の景観とともに、三百年という風の盆の歴史を、町の人達が、親から子へ、そして地域の人達の協力で伝えて来た事に拍手を送りたい。日本全国から、多くの人が集まるのは、そんな文化の香りに感銘をうけるのだろう。

画：岸ユキ

今多くの人がわがままな個人主義にかたむいているように思う。自分さえよければ良い。わずらわしい事にはかかわらない。しかし……そんな中から美しい町も文化も生まれない。

私事であるが、我家は、家の窓も心の窓も大きく開いて日々を暮している。どんなにとっつきにくい人でも、こちらが誠意を持って心の窓を開ければ、普通は相手も開けてくれる。そこから会話が生まれ、助けあったり協力しあったりできるようになる。

我家の近所は皆家族のようだ。道路のお掃除も、早く起きなければ、先に我家の前も、きれいに掃き清めらているほどだ。近くの幼稚園や小学校の子供達に、きちんと挨拶をする事も大切な事だ。

美しい町づくりの基本は、まず御近所とのおつきあい。そして地域の文化を皆でまもり育てて行く。その事に誇りを持つ事が大事だと思う。

シンポジウム『江戸の風景』を開催しました！

去る２００４年５月８日（土）に、美しい東京をつくる都民の会の平成１６年総会とシンポジウム「江戸の風景」が、台東区生涯学習センターにて開催されました。シンポジウムは台東区との共催にて行われ、また東京都にも後援をいただきました。シンポジウムにおいてはまず竹内先生より基調講演をいただいたあと、当会岸副会長コーディネートのもとパネルディスカッションが行われました。

当日は多くの参加をいただき、江戸の下町とその文化について、様々な議論が繰り広げられました。

江戸開府四百元年　「江戸の風景に学ぶ」

基調講演　竹内誠氏（江戸東京博物館館長）

江戸開府４００年元年の元は事始めの意味。江戸も、開府の翌年から長い時間をかけて整備を積み重ねていきました。東京もそうあるために、三つ提案があります。一つは住民意志による古い町名の復活です。街の歴史的な成り立ちの理解は町への誇りにつながると考えるからです。二つ目は、日本橋上空の高速道路の問題です。今は地元の方々が非常に頑張っておられます。三つ目江戸城の天守閣再建。すぐではなく、焼失した明暦の大火（1657）から４００年後の２０５７年を目標に。

具体的にそうした夢を持つことが大事であると思います。

東京のそこかしこに江戸は残っています。二世紀半も平和が続いた江戸時代ですが、この平和が前提にあってこそ、経済も文化も発達しました。

江戸の人は自然との共生し、また四季折々の観念がありました。物売りの声が一日の変化を知らせ、花見、潮干狩り、月見、などで四季の移ろいを感じる事が出来ました。

八代将軍吉宗は養生所や町火消し制度の整備と共に飛鳥山や墨田堤などに町民の為の遊楽施設を造っています。江戸には他にも盛り場、名所が多く、それらを楽しむ生活のバランス感覚のある江戸町民が多くおりました。我々現代人も学ぶところが多いでしょう。

【たけうち　まこと】
1933年、東京都生まれ。文学博士。専門は江戸文化史、近世都市史。江戸東京博物館館長、東京学芸大名誉教授、立正大文学部教授。編著書に「教養の日本史」ほか多数。

パネルディスカッション　「江戸の風景～下町あれこれ～」

工藤　裕司氏（（株）ハドソン名誉会長・庶民文化研究家）

毎朝浅草寺周辺の変化を毎日カメラで撮影していますが、変化の早さが実感できます。同じように江戸時代の日記や郷土史家の残した資料から、歴史書には書いていない事実が分かります。

下町の生活感が薄れています。かつて豊かな空間をつくっていた小川や水路などを、復活して欲しいと思います。

竹内誠氏（江戸東京博物館館長）

昔、浅草にはぽんぽん蒸気（水上バス）で父に連れられていきました。こうした水との関係を見直すべきでは。消えてしまったものを違う形で、例えばゆかりの人の銅像や広場で再生してはと思います。

地域への愛着や子供の地域教育も大事では。人の心の風景、連帯といいますか、住んでいる人の風景からスタートするのが大事だと思います。

荒井修氏（浅草観光連盟事務局長）

隅田川は現在一直線なので流れが早い。なんとか川辺に魚が住めるようにして人を呼びたいと思います。こういうところから町が生き返るのでは。

２０００年大晦日の夜中に仲見世を和蝋燭で照明しました。浅草寺本尊示現会でも行いましたが、人の影がよく映えました。風情から理解すると景観も捉えやすいと思います。

進士五十八氏（当会会長、東京農業大学学長）

都市というのは生きていて、歴史を積み重ねています。東京は多様な実態があってそれが魅力。都市デザインも生活者のセンスの反映が重要。

百花園や椿山荘等、すばらしい構造、受け継がれて来た「地」がある。みんな「図」の方に目が行きがち。都市文化は豊かな暮らしから生まれるのではないでしょうか。

歩いてみました・・東京都選定の歴史的建造物

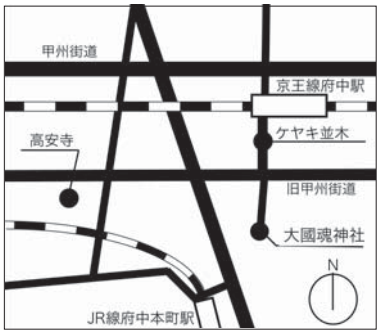
東京都は平成９年に景観条例を定め、文化財を除いた71カ所（第２９条）と文化財としても選定されている２９カ所（第３６条）の歴史的建造物と景観上重要な歴史的建造物を 選定・指定しています。

意外と身近にある魅力的な風景。訪ねてみませんか。

ケヤキ並木

○大國魂神社本殿及び馬場大門のケヤキ並木（第３６条による指定）
都指定／有形文化財・　国指定／天然記念物

大國魂神社は１１１年に武蔵国の護り神を祀ったのが始まりといわれ、馬場大門ケヤキ並木は源頼義・義家（１１世紀）の父子が苗千本を奉納したものと伝えられています。
府中の象徴的な風景として親しまれています。



地図

○高安寺／本堂・山門・鐘楼（第２９条による選定）
観音堂（第３６条による指定）

室町幕府の足利尊氏（１４世紀）がこの地にあった市川見性寺を再興して龍門山高安護国禅寺としたのが始まりと伝えられています。境内はよく手入れされ、落ち着いた佇まいです。

ケヤキ並木から大國魂神社、まだところどころ旧道の面影を残した風景をたどりながら旧甲州街道を西に高安寺までは、府中駅から１km弱です。

山門

鐘楼

本堂

平成１６年度第１回研修会
『東京の風景－水環境と野川－』のお知らせ

○日時：
平成１６年１０月３０日（土）
午後１時～
講演会 午後１時～午後２時３０分
流域探訪　～午後４時
○会場：小金井市市民会館
「萌え木ホール」　３Ｆ会議室
（小金井市前原３丁目３３番２５号
小金井市商工会館内）
○講演：
『東京の風景～水環境と野川～』
講師：鍔山英次氏
（写真家／元東京新聞社写真部長）
○申し込み：
ファックス03(3971)2746、
株式会社三友社気付。
１０月２５日(月）締め切り。

会員学習会のお知らせ
「岩崎邸見学」

旧岩崎邸は、1896年（明治２９年）に三菱創設者の本邸として建てられた、洋館、和館、撞球室の３棟からなる邸宅です。様々な建築様式が取り入れられた近代日本住宅を代表する西洋木造建築です。重要文化財。東京都「景観上重要な歴史的建造物等」指定。

○日時：
１１月２７日（土）　午後２時～
○会場：
岩崎邸（台東区池之端一丁目）
入場チケット売り場にて集合
○費用：
入場料は各自ご負担ください（400円）。
○申し込み：
ファックス03(3971)2746、
株式会社三友社気付。
１１月２２日(月）締め切り。

東京景観写真

会員、一般の方から寄せられた
写真を掲載しています。

左：神田川お茶の水付近　右：千代田区聖橋　（撮影：寺田弘）

編集注：現在神田川が流れる千代田区北側一帯は、もとは神田山と呼ばれる丘陵地帯であった。1603年の江戸開府のおりに江戸城の外堀として、人工的に掘削され、渓谷を隔てて現在の湯島台と駿河台が向かい合う地形がつくられた。

その急峻な渓谷の姿から、「茗渓（めいけい、茗はお茶の意）」や、中国の名勝、赤壁にちなんで「小赤壁（しょうしょうへき）」などとも呼ばれた。江戸時代を通じて、主に防衛上の理由から橋は架けられた事は無かったという。

写真の聖橋は、関東大震災後の復旧事業の一つとして、1927年に完成したアーチ橋である。橋の名前は、北側にある湯島聖堂と、南側にあるニコライ堂の両聖堂にちなんでいる。

会員の声

「都庁前を走る、
東京シティサイクリング」
撮影　日本サイクリング協会

東京シティサイクリングは、日本サイクリング協会主催・特別協力東京サイクリング協会で、サイクリングを通してその健康的利用、道路・景観環境を促進するため、第１回を2001年に開始した。

コースは、都庁都民広場から都心経由、夢の島まで約３０㎞とした。

参加者は、第１回2001年1000名。第４回2004年は1500名であった。

（東京サイクリング協会
小笠原淑夫）

会員を募集します

都民の会

「美しい東京をつくる都民の会」では広く会員を募集しています。都民の会は、環境や景観、まちづくりなどを一緒に考え、美しい東京づくりを進めていこうというもので、誰でも参加できます。

年会費は、

・学生千円
・一般の方三千円
・法人・各種団体は一万円。

お問い合わせはFAX.03(3971)2746、(株)文芸事務所三友事務所気付。